

令和7年度西春日井地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域における水田の作付状況については、主食用米の作付けがほとんどである。他作物への転換は、進んでいないのが現状である。全国的な米をめぐる情勢から見ると、今後、主食用米の需要増加が予想される。

このような中で、飼料用米や指定野菜であるホウレンソウを始めとする野菜への転換を促進させるには、農地としての水田を維持していく必要がある。

また、農業者の高齢化や市街化が進んでおり、農地面積の減少が多くみられる中、不作付農地が増加している。担い手への農地の利用集約等による経営の大規模化を視野に入れ、どのようにして農地としての水田を守り、維持することが課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

麦類については愛知県全体で積極的に作付拡大が推進されており、需要が高くなっている。生産性・品質向上への取組を図り、収益の増大へ取り組んでいく。

高収益作物については取り組み農家が現れてこないことから新規就農者を中心に推進していく。

また、農地中間管理機構の活用等により、地域の中心的担い手へ集約可能な水田を確保すると共に、農地の集積、集約化を図る。

このとき、正確な農地情報を収集し、地域の中心的担い手に対して、着実なマッチングを進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水稻を主とした地域の中心的担い手があり、大規模な農業経営を行っている法人が存在する。そのため、水田として集積・集約化を進め、担い手農家の生産性向上を目指す。水田の利用状況は日頃の圃場巡回にて行う。その中で水田利用をしていない圃場については畑地化として地主の了解と担い手の了解を得た上で推進し、農業者育成・確保を進めながら推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ需要に応じた米の生産を行う。

また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と実需者と協議の上安定取引の推進を図る。

(2) 備蓄米

取組無し

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、当地域では大豆等の栽培は適しないため、産地交付金を活用し、今後、飼料用米を有効な転換作物として推進する。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、コンタミ防止のため主に主食用米品種での対応とする。

- イ 米粉用米
- ウ 新市場開拓用米
- エ WCS 用稲
- オ 加工用米
- イ～オについては取組無し

(4) 麦、大豆、飼料作物

転換作物として有用で、実需者からもニーズが高い麦類（小麦）を推進する。

(5) そば、なたね

取組無し

(6) 地力増進作物

該当なし

(7) 高収益作物

産地交付金を活用しながら、指定野菜のホウレンソウなどの野菜の作付けを推進する。またこのような取り組みを推進する中で、県再生協から示された主食用米の生産数量目標の目安を達成していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	389		389		350	
備蓄米	0	0	0	0	0	
飼料用米	0	0	1.0	0	1.0	
米粉用米	0	0	0	0	0	
新市場開拓用米	0	0	0	0	0	
WCS用稲	0	0	0	0	0	
加工用米	0	0	0	0	0	
麦	0	0	1.0	0	1.0	
大豆	0	0	0	0	0	
飼料作物	0	0	0	0	0	
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	
そば	0	0	0	0	0	
なたね	0	0	0	0	0	
地力増進作物	0	0	0	0	0	
高収益作物	0	0	1.0	0	1.1	
・野菜	0	0	1.0	0	1.1	
・花き・花木	0	0	0	0	0	
・果樹	0	0	0	0	0	
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
・〇〇	0	0	0	0	0	
畑地化	0	0	0	0	0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の新規取組	取組面積	（6年度） 0 ha	（8年度） 1.0ha
2	小麦 （ゆめあかりに限る（基幹作））	小麦の新規取組	取組面積	（6年度） 0 ha	（8年度） 1.0ha
3	野菜 （別紙のとおり、基幹作）	高収益作物の作付	作付面積	（6年度） 0 ha	（8年度） 1.1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:愛知県

協議会名:西春日井地域農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	飼料用米の新規取組	1	3,500	飼料用米(基幹作)	不耕起V溝直播栽培等の直播栽培等
2	小麦の新規取組	1	2,000	小麦(ゆめあかりに限る(基幹作))	生育後期に窒素を追肥すること等
3	高収益作物の作付	1	4,000	野菜(別紙のとおり、基幹作)	地域における通常の栽培管理を行うこと等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

高収益作物(野菜)一覧表

対象作物	さといも
	はくさい
	なす
	トマト
	きゅうり
	すいか
	プチヴェール
	ねぎ
	たまねぎ
	かぼちゃ
	だいこん
	にんじん
	とうもろこし
	キャベツ
	とうがん
	ピーマン
	ほうれんそう
	レタス
	れんこん
	落花生
	おくら
	ブロッコリー
	メロン
	いちご